富士ニュース(2020年8月27日発刊)に当法人関連記事が掲載されました！

在宅と病院の連携強化

聖隷富士病院内に2施設移転

一般財団法人恵愛会（山本敏博理事長）が運営する訪問看護ステーションけいあいと居宅介護支援事業所けいあいの在宅部門2施設がこのほど、同会が運営している聖隷富士病院内に移転した。

同じ建物に移ることで同院との協力体制を強化。47床ある地域包括ケア病床を活用し、よりスムーズな入退院支援体制を実現した。地域に根差した適切な医療・介護を安心して受けられるサービスの提供に努めている。

2施設には介護支援専門員や看護師、作業療法士など20人が勤務。看護や介護が必要な難病患者、小児、自宅でのみとりを希望する高齢者なども積極的に受け入れ、現在は訪問看護を100人ほど、居宅介護支援を約150人が利用している。

地域包括ケア病床では、看護師や訪問看護師、介護支援専門員などが連携し「患者・家族が望む生活の場」への退院に向けて支援。同院では入院患者の高齢化を踏まえて2016年に地域包括ケア病床10床を導入し、以後毎年規模を拡充している。

在宅事業部の望月征美次長は「病院と在宅部門の連携強化により、退院直後の方のケアをより迅速かつ適切に行える。利用者さんが病気になったり、容態が悪化したりした場合などにもすぐに医療につなげられる」と話す。

新宮恵介事務長は「病院と在宅部門のコミュニケーションが盛んになり、互いの仕事内容を深く理解できる。多職種のスタッフが利用者を取り囲んで見守る体制を整えられるので、より安心してサービスを利用してもらえるのでは」と期待する。

同院ではこのほか、6月から病院のリハビリスタッフが訪問リハビリにも関わるようになり、連続性のあるサービスの提供にも注力。

今後は「さらに病院・健診・在宅の3事業の連携を強め、安心して暮らせる地域づくりの一翼を担いたい」（新宮事務長）と力を込める。

聖隷富士病院の地域包括ケア病床を活用

看護師や介護支援専門員などが利用者の情報を共有

病院内に在宅部門の2施設を移転（提供写真）

一般財団法人 恵愛会